

令和4年度 保育士の自己評価(自己チェック)

今年度の自分自身の業務を振り返り、自己チェックを行いました。(対象:保育士・保育補助職員)

方式は、自己評価票への記入を採用しました。また、各チェック項目は『レインボー保育園職員マニュアル』等を基準としました。

(数字:% 小数点以下は四捨五入)

	項目	よくできた	できた	あまりできなかった できないところ	できなかつた	回答無し
1	遅刻をしないように余裕をもって出勤する	68	21	11		
2	(園児、保護者、職員等に対して)挨拶は笑顔で快く元気な声でする	64	36			
3	相手と向き合い目をきちんと見て挨拶する(子どもに対しては、相手の目線までおりる)	54	46			
4	言葉づかいは、やさしい言葉で対応する	25	71	4		
5	子どもに対して、呼び捨てや傷つける言葉は絶対につかない	54	46			
6	保護者に対して友達言葉はやめて、礼儀正しい言葉をつかう	64	32	4		
7	職員間でも園内では先生同士ということをわきまえ、丁寧な言葉をつかう	43	57			
8	清潔で活動しやすい服装・身だしなみで業務にあたる	82	18			
9	爪は短く切り、マニキュアはしない	89	11			
10	突起のある指輪やピアスなどのアクセサリーはつけない	93	7			36
11	授乳時は時計もはずし、子どもを傷つけないように配慮する	57	7			
12	髪の毛の長い人は、結ぶなりして子どもに当たらないようにする	75	11			14
13	保育中は私語を慎み、いつでも子どもに手が届くような体勢をとる	18	79	4		
14	保育室を空にしないよう声をかけ合い、子どもだけにしない	68	29			4
15	職員同士、正しくないと思ったことは注意しあう	7	57	25	7	4
16	怒鳴ったり、けなしたりせず、相手の立場に立って、きちんと話す	46	43	4		7
17	室内外・廊下・階段等、ゴミをみつけたら拾い、棚の整理なども心掛ける	32	68			
18	子どもに対して、感情的に頭ごなしに大声で怒鳴らない	57	36	7		
19	子どもに対して、絶対に手はあげない	93	7			
20	子どもに対して、危険をともなうことや約束を破ることなどはきちんと向き合い叱る	39	54			7
21	だらだらと叱らず、簡潔に分かりやすく叱る	36	50			14
22	年間で計画したことを、子どものその時の発達に合わせて、見通しをもって行う	4	46			50
23	保育について、子どもを長時間待たせないように準備しておく	18	54			29
24	全職員が一貫性(お互いが気をつけること、目標とするもの)をもって保育する	18	61	4		18
25	保育中に起こった怪我や事故、子どもの体調変化は些細なことでも報告する	54	46			

(数字:%)

	項目	よくできた (はい)	できた	あまり できなかつた	できなかつた (いいえ)	回答無し
26	子どもの人権に配慮するとともに、それぞれの違いを認め尊重している	36	64			
27	子どもたちの中に入を信頼する気持ちが育つような関わりをしている	36	57	4		4
28	保育の主役はつねに子どもであることを心に留めている	54	46			
29	自分の気持ちをうまく表現できない子どもの心情を汲み取ろうとしている	36	64			
30	保育士自身が積極的に子どもと関わり遊んでいる	43	50	4		4
31	おもらし等をしたとき優しく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している	64	32			4
32	午睡などでは、子どもが安心して心地よく休めるよう配慮している	46	29			25
33	休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしている	14	39			46
34	子どもの病気やアレルギーについて、確認・対応を行なっている	54	36			11
35	和やかな雰囲気のなかで、子どもが楽しく食事に向き合えるよう配慮している	36	43	4		18
36	無理に急かしたりせずに、子どもの自分でしようとする気持ちを大切にしている	21	75	4		
37	ひとりひとりの子どもをよく観察し、その場に適した言葉がけをしている	11	89			
38	事故の予防に努めた保育を行なっている	43	57			
39	障がいのある(と思われる)子どもの保育環境を整え、保育内容や方法に配慮している	14	50	7		29
40	保護者の不安や悩みに寄り添い、支援するよう心掛けている	11	54	4		32
41	子どもや保護者の個人情報やプライバシーに配慮している	68	29			4
42	虐待を疑われる子どもの情報を得たとき、関係機関に照会・通告する義務があることを知っている	96			4	
43	苦情解決の仕組みを知っている	71			25	4
44	不審者が侵入したとき、自分はどのように対応するか分かっている	82			18	
45	他者が読んでも分かりやすい文書作成・記録を心掛けている	14	50			36
46	他の保育士との信頼関係づくりに努めている	43	50	4		4
47	他の職種(保育補助、栄養士、事務等)との信頼関係づくりに努めている	36	57	4		4
48	保育に関わる知識や技術の向上に努めている	18	64	14		4
49	保育士としての人間性を豊かにするための自己研鑽に努めている	18	50	25		7
50	自分自身の体調維持・健康管理に努めている	36	61	4		

※保育補助職員など担当外の業務に関する設問には「回答なし」としている場合があります

令和4年度 保育所の自己評価

今年度の保育所の自己評価では、映画『こどもかいぎ』の研修版DVDを活用して、自園の取り組みや職員個人の振舞いなどを振り返ることとしました。

日 時：令和5年3月25日（土）9:15-10:40

場 所：本園2階（もりのへや）

参加者：保育士・栄養士・園長・副園長（計16名）

方 法：①2グループに分ける

- ②映画『こどもかいぎ』研修版DVDを視聴する
- ③個人ワーク（気づきや感想を書き出す）
- ④グループワーク（グループのメンバーとの意見交換や各自の気づき等を共有する）
- ⑤グループごとに発表

【個人ワーク・グループワークでの意見】

- ・こども同士で相談し合える環境があることは良いと思った。
- ・子どもが興味をもって始めても、危ないと感じたら声をかけてしまっている。見守ることをもう少ししても良いのかなと思った。
- ・（映像では）トラブルやけんかが起こった際に保育士がすぐに助けてしまうのではなく、子どもたち自身が考えることを大切にしていた。
- ・子ども同士が意見を伝え合うことで自分の気持ちを言葉で身につけていくことの大切さを改めて実感した。
- ・何かあった時に、子どもがどうしたいか、どうしたらいいかを聞き、自分でやりとげられるようにする（自分で手をかしすぎてしまっているように感じた）。
- ・「ごめんね」「いいよ」だけが解決でない。
- ・ケンカの仲立ち、保育士が最終的な解決をしないでこども達で話し合うということは大切だと思った。

【グループワークの様子】



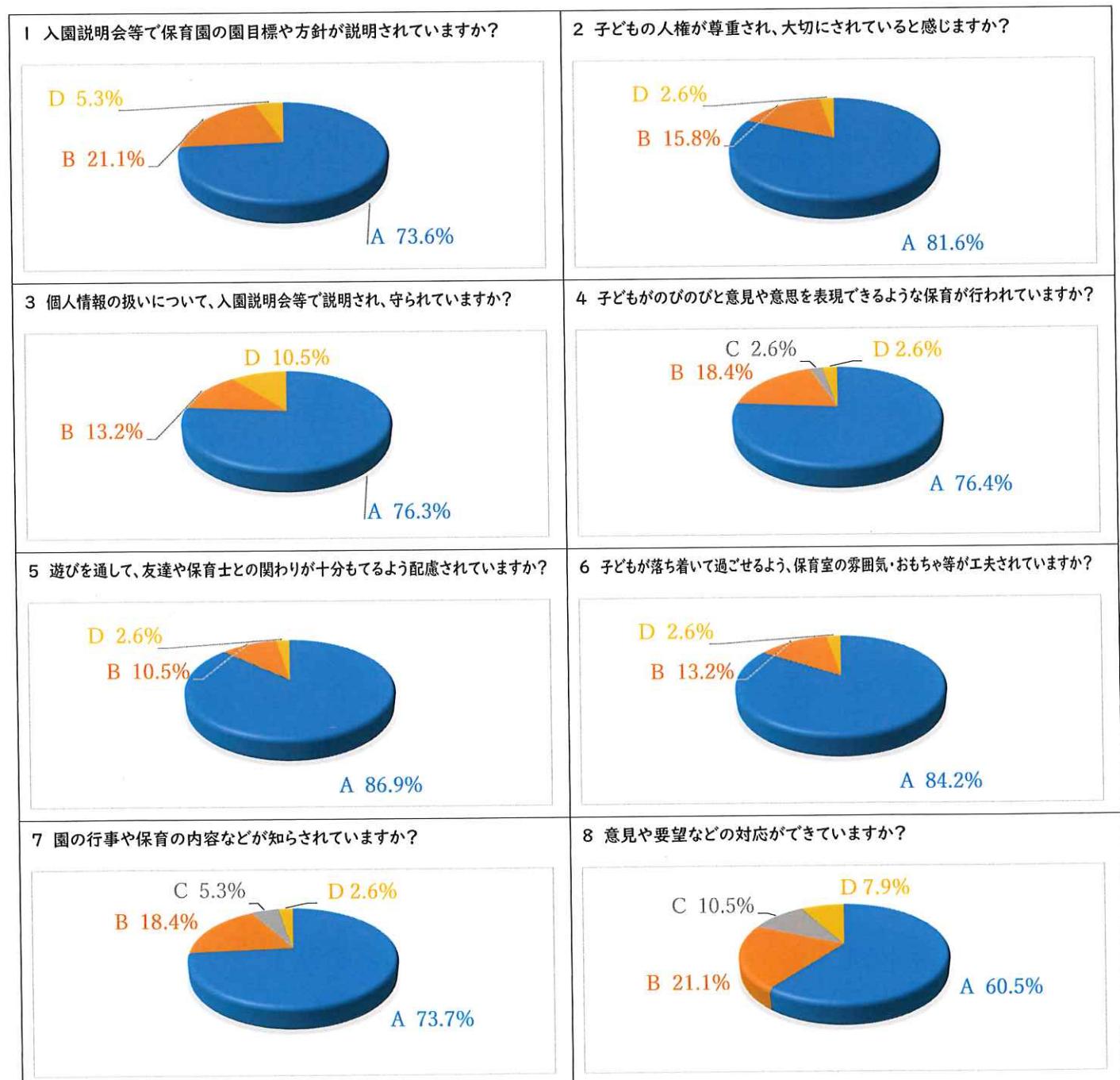
【まとめ】

- ・自園の保育の振り返りをしようとする時、他園の取り組みを参考にすることで、新たな気付きを得ることにつながることを学びました。DVDにていた他園では、“こども同士の対話”や“こどもの声を聞く”ことに重きを置く姿勢が伺えました。子どもたちに「ごめんね」「いいよ」のやりとりがあつたら解決なのではなく、そこにはいたるプロセスを大切にしようとする姿は印象的でした。問題解決に至らなくても、日常的に対話をする機会があることで、自分の気持ちや想いを言葉にする力が育まれていく、相手との心の寄せ合いを学んでいくという視点は、自園での取り組みを考えるうえで、大いに参考となりました。今回得た気付きをふまえながら、新年度も子どもたちが楽しくのびのびと過ごせるような保育に努めていきたいと思います。

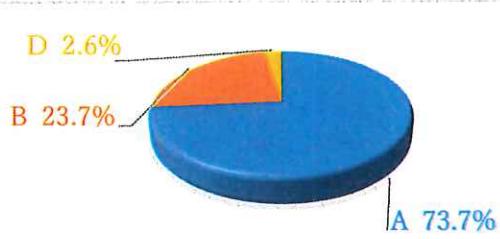
レインボー保育園 令和4年度 保護者アンケート結果

当園の保育の質の向上ならびに円滑な運営のため、保護者のみなさまにアンケートのご協力をいただきました。集約の結果は下記の通りとなっております。いただいた貴重なご意見は、次年度以降の保育・運営に生かしていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

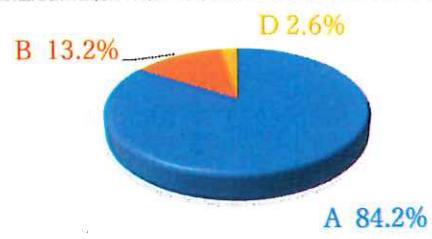
実施期間	アンケート方法（各項目について、評点を記入）				回収率
	十分できている A	おおむねできている B	改善を要する C	わからない D	
令和3年2月8日～19日	A	B	C	D	56.6%



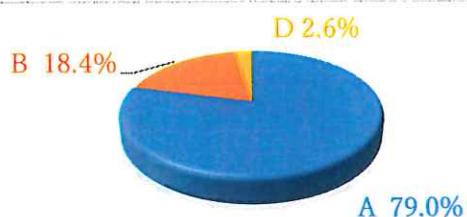
9 子育て相談など、話しやすい雰囲気がありますか？



10 施設が安全で清潔な心地よい空間となっていますか？



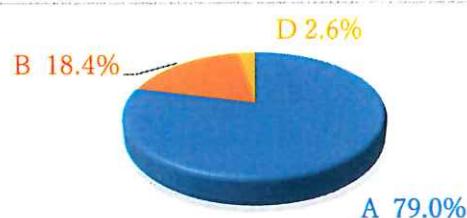
11 給食が楽しく食べられるよう工夫されていますか？



12 子どもの体調への気配りや怪我等に対して配慮がされていますか？



13 感染症の発生状況や注意事項など、健康に関して情報提供されていますか？



14 保育園に対しての総合満足度は？

